

柳田邦男先生へ

汐入東小学校 六年 高橋 理彩

柳田邦男先生、こんにちは。毎年、この手紙を書くのを楽しみにしています。今回は「ちいさな くれよん」について書こうと思います。

幼稚園生だった時、私はものを全然大切にできませんでした。色えんぴつを買ってなくし、クレヨンを買ってなくし、また買ってはなくし……いよいよ、母もあきれた時一冊の絵本を買ってきました。それが「ちいさな くれよん」です。

この本の内容は短くなり捨てられたきいろいろクレヨンが、まだ僕は役に立つぞ！と考え外に出ていきます。クレヨンは外でまめつぶになるまで役に立ち、最後には星空に飛んで行きます。

私は、この本を読んで悲しくなりました。今まで捨ててきたクレヨンや色えんぴつは、まだ使えたはず。なのに、私は捨ててきた。あのクレヨンたちに今でも謝りたいです。そして、できるものならあのクレヨンで絵を書きたいです。また、まめつぶになった時、きいろいろクレヨンはこう言いました。

「ぼく、ちびでもいろんなやくにたってうれしいよ。」そんなことを思っていたのか。その時、私はまだどんな物にも気持ちや考えがあると思っていたから、この言葉のしゅげきは大きかったです。

この日をさかいに物を大切にする努力をはじめました。使ったらなおす。なくさないように。今でも、ものをなくしたりむだにすることもあるけど初めて全部クレヨンを使い切った時は達成感とあのなくしてしまったクレヨンたちも喜んでくれただろうと確信していました。それ

が今できるあのクレヨンたちへのおわびになっていたらしいなと思います。

今、日本はほとんど消耗品で成り立っています。消耗品を使うとどうしてもゴミが出てしまいます。だから、私はどんなものでもリサイクルをしていきたいです。日本国民一人一人が1gでもゴミを減らせばいいと私は思います。どうですか？柳田先生。

【柳田邦男さんからのメッセージ】

色えんぴつでもクレヨンでも、買うとすぐなくすし、なくさなくても、まだ使えるのにすててしまいうけがあったんですね。

でも、絵本『ちいさなくれよん』を読んで、捨てられた小さなクレヨンが、「ぼく、ちびでもいろんなやくにだって、うれしいよ」と言うのを知って、衝撃を受け、同時に自分が

すてたクレヨンの身になってみて、悲しくなったというところは、高橋さんのやさしさでもあると思います。

その日をさかいに、クレヨンを最後まで使いきるように、自分を変えたという。力強い決心ですね！

その決心は、ちびたクレヨンみたいに、小さな決心に見えるけれど、決して小さくない、とても大きな決心だったと思いますよ。

絵本はいくつになっても、人間としてだいじなことを気づかせてくれる、すばらしい友だちであり、先生でもあるのです。